

航空12中隊隊付の地

横芝飛行場を訪ねて



高木 惣治

予科10-8

航空12-1

(東松山市)

横芝飛行場隊付の思い出

航空12中隊の隊付は千葉県九十九里浜に近い横芝飛行場だった。隊付中の或る日、10軒程の所にある海軍の干潟航空隊を訪れた時のことである。天空より一機の海軍機が垂直に降下して来た。5、6百米の処で翼を翻して上昇するかと見守る中、そのまゝ大地に激突、轟音と共に大きな土煙を上げ、木立の中に消え去った。海軍の誇る垂直上昇、垂直降下可能という新鋭機彗星である。目の前で散華した海軍のパイロットの悲劇はこれから飛行訓練をしようとしている候補生にとっては計り知れない衝撃であった。隊付の話になると誰もが語り出す強烈な出来事だった。

横芝飛行場跡を訪ねる旅に出発

戦後60年そんな思いのある横芝飛行場に一度は訪れて見たいと常日頃考えていた矢先、川島順^㉑の発案で訪問可能な時が来た。埼玉には12中隊1区隊のものが3名

いる。

牧野勉^㉔、渡辺孝一^㉗、それに高木だ。さらに横芝に近い成東町には川島亨^㉒がいる。早速連絡を取り合い、渡辺は都合が悪かったので他の3人で日取りを平成17年10月9日～10日と決めた。9日は生憎小雨模様であったが、娘がカーナビを越谷一蓮沼とセットしてくれたワゴン車で朝7時出発。川越駅で牧野を乗せ、1時間足らずで越谷の川島宅に到着。順君の案内で三郷インターから高速に乗り、東関東高速道一東金道を走って11時過ぎには成東町に到着。3連休にも拘わらず道は意外と空いていて思ったより早く辿り着いた。

川島亨は永年成東高校の校長をしていたと聞かすが、成る程、住まいは高校へ歩いて5、6分のところにある。これでは奥さんに嘘も付けなかつたろう等、新京出身の奥さんを交えて楽しい一時を過ごした。つい長居をしたが、昼近くなって、次の目的地横芝町の川島襄次^㉔宅に向かって出発。

因みに、千葉県山武郡出身の60期生は川島順、川島亨、川島襄次の3名。全て川島姓であるが親戚ではないようだ。しかも、3人が一緒に会うのは今回が初めてとのこと。

途中、今晚お世話になる蓮沼村の順君の寓居での懇親会用の材料を仕込み、横芝の襄次宅へと走る。襄次君の家は昔からの名家と云われ、木立に囲まれた由緒ある住まいだった。生まれて初めて会う同期生だが、一瞥して百年の知己のような雰囲気となり、彼の案内で最後の目的地横芝飛行場に向かう。



大貫大尉の碑に花束を手向けて

途中、順君から話を聞いていた大貫大尉の慰霊碑に立ち寄る。大貫善豊大尉は陸士56期のパイロット。大貫大尉は横芝飛行場で7、8機を率いて迎撃訓練をしていたが、終戦間際の或る日グラマンの急襲を受け、全機空中退避したが、唯一機大貫大尉のみ果敢に戦闘を挑み攻撃を仕掛けた。しかし、如何せん、二式高練（97式戦闘機）と新鋭グラマンとの性能の差は覆い難く、撃墜され落下傘で降下したが途中で火災を起こし川島襄次宅の近くの竹藪に落下した。村人は敵兵と思い竹槍を構えて近づくと、毅然として立ち上がり、官姓名を名乗って絶命したと云う。

戦後、襄次君たちが発起人となって近くに「平和の碑」を立てると共に、「大貫大尉戦死の地」の石碑を建立してその霊を弔った。全員用意して来た花束を石碑に手向け、ご冥福を祈り、記念写真を撮った。



横芝飛行場跡にて

最後の目的地横芝飛行場は、昭和13年水戸陸軍飛行学校の分校として開校されたが、その後仙台飛行学校横芝教育隊として訓練の傍ら首都防衛の任に当たっていた。戦後は引き揚げ者達に分譲され、所々に家が建ち、又、畑となって昔の面影は全く失われたが唯一、栗山平和公園が立派に整備され、その一隅に「横芝飛行場跡」の銘が刻まれた、縦1.5米、横2米程の御影石の美しい碑が設置されていた。

碑の前で全員揃って記念写真を撮り、暫し遠い昔を偲んだ。

川島順宅での懇親会

既に雨も上がっていたが、朝早くからの行動に少々疲れ気味であったので、襄次君の提案で、九十九里浜の海浜公園の中にあるガーデンハウス「マリーン」で休養することになり、車で向かう。ここには自然温泉の施設があるので、早速一汗流そうということになり、約1時間の沐浴をする。なかなかの名湯であった。

ここで襄次君と別れ、残る4名は蓮沼村の順宅へ。家の回りの草は極めて元気。伸び放題の雑草を掻き分けて寓居に入る。

家に着くや否や順君は大忙しで今夜の宴会のバーベキューの支度をする。さて宴会

となると飲み物はビール、日本酒、焼酎と
沢山あるが、アルコールは一向に進まない。
亨君は白内障上がりでお茶だけ、順君は料
理に忙しく、勉君と私だけがどうやら一人
前、随分残ってしまった。

しかし、途切れなく進むのは60年前の
思い出と60年間の苦勞話だが、こうして
生き延びられた幸せに、時間のたつのも忘
れて秋の夜の一時を語り明かした。

次の朝は、7時頃起きて、順君の手製の
皿うどんをご馳走になる。ご主人は家の周
りの草が気になるのか1時間ほど大汗をか
いて草退治をしていた。11時頃出発、道
の駅で土産を買って帰りを急ぎ、全行程4
00軒程の隊付の地訪問の楽しい旅は無事
終わった。